



コミュニティ・スクールについて

城東中学校は、2009年の学校開校に合わせて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）として運営することが計画されていました。そのため、開校の翌年に伊賀市で初めてのコミュニティ・スクールとなりました。伊賀市では、城東中学校のコミュニティ・スクールの成果を受けて、一昨年度からは全ての小中学校でコミュニティ・スクールを実施しています。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんが学校運営協議会という組織をつくって、知恵を出し合い、協働して子どもたちの成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。学校運営協議会では、校長が作成するマニフェストや学校経営方針を承認したり、学校運営に提言をしたりして学校経営に参加していただきます。

本年度は、4月27日（木）に第1回役員会、5月25日（木）に第1回学校運営協議会を開催して、マニフェストと学校経営方針を承認していただき、本年度の活動計画を決めていただきました。主な活動内容は、定期テスト前に学力補充のための学習会をしていただく「城東寺子屋」、「面接練習」、「通学路の安全確保の取組」等です。コロナ後の新たな活動を作っていただきます。詳しくは、「城東中学校ホームページ」にリンクを貼ってある「城東中学校応援隊!」のホームページをご覧ください。

本年度の学校運営協議会委員の皆様を紹介させていただきます。

WEB版には掲載しません

1年生が交通安全教室を行いました！

5月17日（水）午後、1年生が伊賀警察署の方から、自転車を中心交通安全のお話をお聞きました。本校はバス通学生以外は全員が自転車通学を選べます。自転車は便利な乗り物ですが、被害者にも加害者にもなり得るので、安全運転を徹底することを学びました。



1年生がネットモラル学習会を行いました！

5月24日（水）午後、1年生がKDDIの講師の方から、ネットモラルを学びました。SNS等のトラブルについて、動画を観た後、どこが問題なのか、トラブルの回避方法を考えました。写真・動画の拡散、情報漏洩、誹謗中傷などのトラブルについて、「遊び半分」でも世界中に広がり、犯罪につながる可能性があることを知り、個人情報情報を容易に相手に送らないこと、一度立ち止まって、「自分で責任がとれるのか」と考えることが大切であることを学びました。携帯依存になると、生活習慣が崩れ、勉強に集中できないなどの危険性があるので、家族や自分でルールを決め、それを守ることが大切で、それができない人はフィルタリングをかけたり、使用を控えたりする必要があることを学びました。





【学校教育目標】 「地域を愛し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

I 【人権・同和教育の充実】

つながる

生徒一人ひとりが、周りから大事にされていると実感する集団づくりをめざし、自尊感情を高めます。

- ⇒ ア 学習計画帳を通して生徒と気持ちの交流を図れるよう、提出の習慣化をめざします。
- イ 人権学習、「城東のつどい」、人権講演会などのとりくみでは、自分や仲間をみつめるための発信・交流の場を設定します。
- ウ 人権学習の後、教育相談を実施し学習内容を深めます。
- エ 差別をなくそうとする気持ちと態度を、学習を通して育てていきます。

評価目標 ①学級等で自分の思っていることや考えていることが言える。【85%】

②今の自分が好きと言える。または、自分にはよいところやがんばっているところがある。【85%】

II 【学力の向上】

わかる・できる

目標をもたせ、その実現に向けて家庭学習を習慣化させるとともに、わかる授業の創造を目指し授業改善に取り組みます。

- ⇒ ア 教育相談により、目標をもたせ、意欲的に学習するよう取り組みます。
- イ 表現交流・小集団学習の時間を授業に設定します。
- ウ 授業力向上を目指し、研究授業や授業参観に積極的に取り組みます。
- エ パソコンの活用や、宿題の提示の仕方を工夫し、分かったことをできるようになるよう工夫します。
- オ マイスタノートの活用を図り提出を習慣化します。
- カ 読書の習慣化を図るために取組の工夫と研究をします。

評価目標 ①授業がよくわかる。【90%】

②家庭では、平日2時間以上、休日4時間以上、家庭学習にとりくんだ。【60%】

③自分の設定した目標時間以上、読書をすることができた。【60%】

III 【キャリア教育の推進、地域との連携】

であう

出会い・体験学習を通して、気づきと感動を大切にしたりくみを進め、将来への夢や目標をもって生活する力を育てます。

- ⇒ ア ゲストティーチャーや講師を招いての学習を充実します。
- イ 体験活動や交流活動から、様々なキャリアについて学習します。
- ウ 学校運営協議会と連携し、地域の人との交流から学ぶ機会を増すように努めます。
- エ 学年通信、学校だよりの発行、ホームページ等による発信の充実に努めます。
- オ 生徒に望ましい働く姿を示し、生徒と向き合える時間の確保に努めます。

評価目標 ①人権学習や体験学習を通して、自分を見つめ、生き方について考えることができた。【95%】

②体験学習や人との出会いの機会を通して、将来の夢や目標をもつことができた。【80%】